

平成21年度 読書感想文コンクール

角館図書館後援会主催の平成21年度読書感想文コンクールが行われ、小・中学校の部合わせて48点の応募がありました。

12月22日、各小中学校の先生と図書館後援会員によって審査会を行い、48点の中から佐々木茉祐さん(中川小学校3年)の「ハチ公物語を読んで」が最優秀賞に選ばれました。入賞者と最優秀賞作品を紹介します。



審査会の様子

審査員の皆さん

角館小:井上裕子先生
中川小:細川誠先生
白岩小:高橋悦子先生
角館中:小笠原直子先生
図書館後援会:
西宮陽助先生
鈴木次郎先生

読書感想文コンクール審査結果 (敬称略)

【最優秀賞】 ^{ささきまゆ}佐々木茉祐(中川小学校3年)

【優秀賞】 ^{きもときよら}木元聖(白岩小学校4年)・^{いとう}伊藤かおり(角館中学校3年)

小学校下学年の部

入選 ^{たぐちあゆみ}田口歩実(中川小2年)

佳作 ^{すがわりお}菅原理緒(白岩小1年)・^{ささきいっせい}佐々木一生(白岩小2年)・^{くさなぎこと}草薨言(白岩小3年)

小学校上学年の部

入選 ^{すずき}鈴木めぐみ(中川小5年)

佳作 ^{とざわりか}戸澤梨華(中川小4年)・^{とざわ ゆうな}戸澤優奈(中川小5年)・^{たかはし}高橋あやか(白岩小6年)

中学校の部

入選 ^{たかはししおん}高橋紫苑(角館中2年)

佳作 ^{さくらい さえ}桜井紗永(角館中1年)・^{たておかり さ}館岡里紗(角館中1年)・^{たかはし かすみ}高橋香住(角館中2年)



最優秀賞作品

『ハチ公物語を読んで』佐々木茉祐(図書:「ハチ公物語」)

わたしが、この本を読んだのは、

「この本とってもいいお話よ。」

と、お母さんにすすめられたからです。ハチは、秋田犬です。大学教じゅの上野秀次郎という人の家に縁があってもらわれて来ました。前足をぐっと八の字にふんばっていたからハチと言う名前をつけたそうです。教じゅはハチをとててもかわいがり、いっしょにおふろに入ったり、いっしょにねたりしました。そしてハチは、雨の日も雪の日も教じゅを駅まで送りむかえをするのが日課になっていました。ハチは、きっと、よろこぶと思って行ったと思います。わたしは、ハチは、すごいなあと思います。わたしなら、毎日、む理だと思います。きっと、めんどくさいなあ、思ったと思います。ハチと先生は、とってもなかよしだなあ、と思います。本に書いていたほかにもさんぽをしたり、エサをあげたり、ハチのよろこぶことをしてあげたと思います。

この本を読んでいるうちにわたしも、何かかってみたくなりました。わたしはせわをしていませんが、わたしの家では、牛をかっています。生まれた牛のせわがたいへんなことは、分かります。ミルクをなかなか飲まなかったりうちのせわをしたり、おじいちゃんは、いつも大へんそうです。ハチも子犬のころもこうやってせわをしてもらったと思います。だからハチは教じゅのことが大すきだったと思います。教じゅがなくなる時、ハチが急いで悲しげな声でほえ始めました。そんなことがあるのかなと、わたしは、ドキッとしました。ハチは、その後、よその家にあずけられましたが、何度もぬけだして、自分の家にもどりました。駅でずっと教じゅの帰りをまっているハチをかわいそうに思いました。教じゅが帰ってくるのを信じて毎日まっていたと思います。とうとう、ハチが死んでしまった時、むねが苦しくなりました。ハチ、天国で教じゅと会えるといいね。